

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。
水田でのヒメトビウンカの適期防除を行いましょう。

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、多発するとイネが減収します。発病すると治療はできないため、ヒメトビウンカを対象とした防除が重要です。

本年の10回振りすくい取り虫数は平年より少ないものの、保毒虫率は引き続き高い地点が認められていることから、イネ縞葉枯病対策のため、適期に防除を行いましょう。

[現在の状況]

- ① 5月に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫において、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が5%以上の高い値であったのは、県西・県南地域11地点中2地点であった(表1)。
- ② 5月30日現在、有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の産卵最盛日は、平年並と予測される(表2)。なお、今後の気温の推移によっては、表に記載した産卵最盛日および防除適期は数日程度変わる可能性がある。

表1 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

地域	調査地点	RSV保毒虫率(%) ¹⁾				
		令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	本年 ²⁾
県西	古河市 水海	3.7	5.3	2.7	1.1	2.0
	結城市 結城	6.3	7.4	3.2	7.4	1.1
	下妻市 高道祖	5.9	2.7	1.1	4.3	1.6
	常総市 三坂町	5.9	3.2	1.1	3.7	2.7
	筑西市 二木成	9.0	3.2	5.9	5.9	5.3
	坂東市 矢作	— ³⁾	—	2.1	—	5.9
	桜川市 加茂部	5.3	5.3	5.9	4.3	2.1
		原方	7.4	2.1	4.8	3.2
	八千代町 高崎	8.5	6.4	5.3	13.8	4.3
県南	つくば市 大形	5.9	3.7	3.2	2.7	2.1
	つくばみらい市 市野深	6.9	1.6	5.3	3.2	4.3

1)簡易ELISA法により検定した。

2)採集日：令和7年5月13、14、15、16、22日、検定実施日：5月26日。

サンプル数：各地点94～188頭。

3) —：未調査

表2 水田におけるヒメトビウンカ第一世代成虫の予測産卵最盛日および予測防除適期*

アメダス地点		古河	下館	下妻	つくば	土浦	笠間	水戸
予測産卵最盛期	本年	6/6	6/11	6/11	6/12	6/9	6/17	6/15
	平年値	6/8	6/13	6/11	6/13	6/11	6/17	6/15
予測防除適期	本年	6/6-13	6/11-18	6/11-18	6/12-19	6/9-16	6/17-24	6/15-22

※有効積算温度から予測した産卵最盛日(5月30日現在)。防除適期は、予測した産卵最盛日から7日後までの間。